

大阪大学グローバルCOEプログラム
「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」主催シンポジウム

シオニズムの解剖

現代ユダヤ世界における
ディアスポラとイスラエルの相克

[プログラム]

10月9日(土) 13:00~18:30

第1セッション

ディアスポラ・ユダヤ社会と新たな政治文化

報告者: 鶴見太郎, 西村木綿, 池田有日子 討論者: 高尾千津子

第2セッション

イスラエルの建国とその余波

報告者: 野村真理, 森まり子, 金城美幸 討論者: 田浪重央江

10月10日(日) 10:00~18:00

第3セッション

20世紀の前衛とシオニズム

報告者: 早尾貴紀, 合田正人, 平井玄 討論者: 細見和之

第4セッション

ヘブライ的エートスの生成と変容

報告者: 赤尾光春, 四方田犬彦, 村田靖子, 今野泰三 討論者: 鶴岡哲

共催: 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)
後援: 京都ユダヤ思想学会

日時 2010年10月9日(土) 10日(日)

会場 東京麻布台セミナーハウス(大会議場)

東京都港区麻布台1-11-5 TEL: 03-3582-2922

地下鉄日比谷線・神谷町下車E1出口(桜田通りを東京タワー方面へ徒歩3分)

参加無料・事前登録不要

[地図]



【お問い合わせ】大阪大学大学院人間科学研究科内 グローバルCOE事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2 TEL:06-6879-4016 FAX:06-6879-4049
E-mail:gccejimu@hus.osaka-u.ac.jp http://gcoc.hus.osaka-u.ac.jp/

[概要]

イスラエル／パレスチナ紛争は、現代世界が抱えるもっとも困難なコンフリクトの一つである。大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」主催による本シンポジウム「シオニズムの解剖——現代ユダヤ世界におけるディアスポラとイスラエルの相克」では、紛争の一方の当事者であるユダヤ人社会内部に見られる多様性や対立に焦点を当て、紛争の起源としてのシオニズム運動について再検討する。

シオニズム運動および建国後のイスラエル国家は、ユダヤ的伝統の中につねに脈打ってきたディアスポラの肯定論と否定論との緊張関係のなかにおかれてきた。そのため、シオニズム運動は、第一に、「ユダヤ・ナショナリズム」という外観に比して、伝統的なユダヤ教の価値体系とは大きく矛盾し、第二に、シオニズム内部の諸潮流間で複雑な対立を引き起こしており、また第三に、ユダヤ人社会内における他の世俗的思想運動（社会主義、文化自治主義、リベラリズム等）とも競合してきた。本シンポジウムでは、こうしたいくつかの対立軸に着目しつつ、ディアスポラからイスラエルへの帰還と建国という目的論的な既成の歴史観を排し、多角的かつ批判的なシオニズム像を示したい。

[プロフィール / 報告者]

赤尾光春 (あかお みつはる)

大阪大学特任助教。ユダヤ文化研究。東欧・ロシア・パレスチナ／イスラエルを中心とする近現代のユダヤ文化に関する横断的研究を試みている。共編：『ディアスポラから世界を読む』（明石書店、2009年）、共訳：ジョナサン／ダニエル・ボヤーリン『ディアスポラの力』共訳（平凡社、2008年）、論文：“A New Phase in Jewish-Ukrainian Relations?” *East European Jewish Affairs* 37-2(2007)

池田有日子 (いけだ ゆかこ)

関西大学非常勤講師。京都大学地域研究統合情報センター研究員。アメリカ・シオニスト運動の展開を、パレスチナ問題も射撃に入れて検証している。論文：「ルイス・ブランダイスにみる『国民国家』『民主主義』『パレスチナ問題』」『年報政治学 2007-II』(2007)、「アメリカにおけるシオニズムの論理」『政治研究』51(2004)、「アメリカ・シオニスト運動と『パレスチナ・アラブ人問題』」『政治研究』48(2001)

今野泰三 (いまの たいぞう)

大阪市立大学博士後期課程在籍。日本学術振興会特別研究員。専門は中東政治学、政治地理学。宗教シオニストの入植運動を中心として、イスラエル入植地内部の社会経済構造・空間構造を検証している。論文：「ユダヤ人入植者のアイデンティティと死／死者の表象」『日本中東学会年報』26-2（印刷中）、「イスラエルの併合政策とパレスチナの方行」『ミフターフ』25(2009)

金城美幸 (きんじょう みゆき)

立命館大学博士課程在籍。パレスチナ・イスラエル地域研究。歴史記述・集合的記憶論。論文：「建国初期イスラエルにおけるデイル・ヤーシオン事件の語り」『Core Ethics』6(2010)、「イスラエルにおける歴史記述とパレスチナ難民問題」『Core Ethics』3(2007)、「ホロコスの表象の可能性」『生存学研究センター報告』13(2010)

合田正人 (ごうだ まさと)

一橋大学卒業。東京都立大学博士課程中退。明治大学教授。著書：『レヴィナスの思想』（弘文堂、1998年）、『ジャンケレヴィッチ』（みすず書房、2004年）、『吉本隆明と柄谷行人』（PHP 新書、近刊）

鶴見太郎 (つるみ たらう)

東京大学博士課程修了（学術博士）。日本学術振興会特別研究員PD。歴史社会学、ロシア・ユダヤ史、シオニズム史。論文：“Was the East Less Rational than the West?” *Nationalism and Ethnic Politics* 14-3(2008)、「なぜロシア・シオニストは文化的自治を批判したのか」『スラヴ研究』57(2010)、“Neither Angels, Nor Demons, But Humans” *Nationalities Papers* 38-4(2010)

野村真理 (のむら まり)

金沢大学教授。社会学博士（一橋大学）。専門は中東欧ユダヤ人の近現代史。著書：『西欧とユダヤのはざま』（南窓社、1992年）、『ウィーンのユダヤ人』（御茶の水書房、1999年）『ガリツィアのユダヤ人』（人文書院、2008年）

西村木綿 (にしむら ゆう)

京都大学博士後期課程在籍。日本学術振興会特別研究員。イディッシュ語文化圏のユダヤ人の政治運動を研究。論文：「リトアニア・ポーランド・ロシアのユダヤ人労働者総同盟『ブンド』における民族理論の発展」『社会システム研究』12(2009)

早尾貴紀 (はやお たかひり)

社会思想史研究。東京経済大学非常勤講師ほか。ヘブライ大学客員研究員(2002-04)、ハイファ大学客員研究員(2008)。著書：『ユダヤとイスラエルのあいだ』（青土社、2008年）、共編：『ディアスポラから世界を読む』（明石書店、2009年）、共訳：ジョナサン／ダニエル・ボヤーリン『ディアスポラの力』（平凡社、2008年）

平井玄 (ひらい げん)

1952年生まれ。音楽と歴史がぶつかり合う独特の場所で思考してきた。音楽文化論。横浜国立大学非常勤講師。著書：『ミッキーマウスのプロレタリア宣言』（太田出版、2005年）、『千のムジカ』（青土社、2008年）、『愛と憎しみの新宿』（筑摩書房、2010年）

村田靖子 (むらた やすこ)

東京都立大学修士・博士課程修了。英文学専攻。弘前大学助教授を経て、現在東邦大学教授。共著：『モダニズムの越境』（人文書院、2004年）、『わかるユダヤ学』（日本実業出版社、2002年）、翻訳：アモス・オズ『ブラックボックス』（筑摩書房、1994年）

森まり子 (もり まりこ)

東京大学特任准教授。専門は中東近現代史。東京大学博士課程修了（学術博士）。ハーバード大学中東研究所博士研究員などを経て現職。著書：『社会主義シオニズムとアラブ問題』（岩波書店、2002年）、『シオニズムとアラブ』（講談社選書メチエ、2008年）、論文：「『不寛容』の淵源と形成」『ラチオ』3(2007)

四方田犬彦 (よもたいぬひこ)

明治学院大学教授として映画史・比較文化を教える。2004年、文化庁の文化通信使としてテルアヴィヴ大学で日本文化を講じた。著書：『日本映画と戦後の神話』（岩波書店、2007年）、『見ることの塩』（作品社、2005年）翻訳：『マフムード・ダルウィーシュ詩集』（書肆山田、2006年）

[プロフィール / 討論者]

鶴飼哲 (つゐい さとし)

一橋大学教授。フランス文学・思想。著書：『抵抗への招待』（みすず書房、1997年）、『主権のかなたで』（岩波書店、2008年）

白杵陽 (うすき あきら)

日本女子大学教授。地域研究博士（京都大学）。パレスチナ／イスラエル研究。中東政治。著書：『大川周明』（青土社、2010年）、『イスラエル』（岩波書店、2009年）

高尾千津子 (たかお ちづこ)

立教大学特任教授。文学博士（早稲田大学）。専門はロシア・ソ連史、現代ユダヤ史。著書：『ソ連農業集団化の原点』（彩流社、2006年）、共著：『内なる境界』『講座スラブ・ユーラシア学第3巻』（講談社、2008年）

田浪亜央江 (たなみ あおえ)

パレスチナ政治文化研究。成蹊大学ほか非常勤講師。著書：『〈不在者〉たちのイスラエル』（インパクト出版会、2008年）、共編：『鏡』としてのパレスチナ（現代企画室、2010年）

細見和之 (ほそみ かずゆき)

1962年篠山市生まれ。人間科学博士（大阪大学）。ドイツ思想専攻。大阪府立大学教員。著書：『「戦後」の思想』（白水社、2009年）、『永山則夫』（河出書房新社、2010年）

[プログラム]

10月9日(土)〈一日目〉

第1セッション (13:00 ~ 15:40)

ディアスポラ・ユダヤ社会と新たな政治文化

忘れられた場所と世代
——「長い19世紀」最後のロシア・シオニスト（鶴見太郎）

ユダヤ・ネイションに対抗する「イディッシュ労働者」
——ブンドの運動理念をめぐって（西村木綿）

アメリカ・ユダヤ人とシオニズム
——国家忠誠と同胞意識のはざままで（池田有日子）

コメント（高尾千津子）

第2セッション (16:00 ~ 18:30)

イスラエルの建国とその余波

ホロコースト後のユダヤ人DP(Displaced Person)問題（野村真理）
イスラエル建国前後のシオニストによる

パレスチナ・アラブ人政策（森まり子）

国家の起源にどう向き合うか

——「新しい歴史学者」とパレスチナ難民問題への責任（金城美幸）

コメント（田浪亜央江）

10月10日(日)〈二日目〉

第3セッション (10:00 ~ 12:30)

20世紀の前衛とシオニズム

バイナショナリズムの過去と未来——理想か現実か（早尾貴紀）

現代哲学におけるシオニズムと反シオニズム（合田正人）

クレズマー・アゲインスト・シオニズム（平井玄）

コメント（細見和之）

第4セッション (13:30 ~ 16:40)

ヘブライ的エートスの生成と変容

否定のシオニズム

——ヨセフ・ハイム・ブレンネルとイデオロギー批判の臨界（赤尾光春）

シオニズムの映画的表象（四方田犬彦）

〈イスラエルの原罪〉を書けるか

——現代ヘブライ語文学の可能性（村田靖子）

死と贖いの文化——山頂のユダヤ教メシア主義者（今野泰三）

コメント（鶴飼哲）

総合討論 (16:50 ~ 18:00)

総合コメント（白杵陽）

